



こんにちは！水戸市立図書館です

新入生のみなさん、新2年生、新3年生のみなさん、こんにちは！

いつも支援員だよりを読んでくれている人のために、今回は去年の続きで、日本の図書館のはじまりのお話をします。(ちなみに去年は、「世界の図書館のはじまり」でした。)

支援員だよりなんて読んだことないよ、とか、忘れちゃった、という人も大丈夫です。

支援員だよりのバックナンバーは、水戸市立図書館のホームページで公開されていますので、アクセスしてみてください。

*水戸市立図書館のホームページの、「学校図書館支援事業」⇒「学校図書館支援員だより」とクリックすると、今までの支援員だよりを見ることができます。



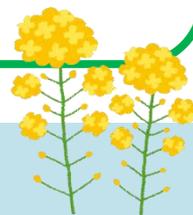
日本の文字のはじまり

図書館には、図書が必要です。図書とは、「なんらかの情報を、持ち運び可能な材料に、文字や絵によって記録したもの」です。

世界最古の文字は、約5000年前のヒエログリフ(古代エジプトで使われていた文字)とされています。それでは、日本はいつから文字を使い始めたのでしょうか？

日本最古の文字とされているのが、紀元57年頃、後漢(当時の中国)から日本におくられた「金印」にきざまれた漢字、「漢委奴国王」かんのわのなのこくおうです。その後、4世紀頃から本格的に漢字が伝わったと考えられています。

もともと日本には、日本語を書き表すための固有の文字がありませんでした。そのため人々は、大陸から伝わってきた漢字にさまざまな工夫を加えて、日本語を書き表わそうとしました。



日本の図書館のはじまり



701年の大宝律令たいほうりつりょうにより定められた「図書寮」ずしょりょうは、日本で最初の図書館と言える部署でした。図書寮では、国の図書を収集・管理し、墨や筆、紙の製作も行っていました。しかし、図書を読んだり借りたりできたのは、身分の高い皇族や上級役人など、ごく一部の人々に限られていました。

日本で最初の公開図書館といわれているのが、奈良時代後期(8世紀なかば頃)の貴族、石上宅嗣いそのかみのやかつぐが設置した「芸亭」うんていです。芸亭には、仏教の経典など古今の図書が集められ、学問をする人びとに開放されました。集められた図書を使って、講義や討論も行われていたようです。

芸亭は、平城京(奈良)にありました。宅嗣の死後、都が平安京(京都)に移ったこともあり、いつしか失われてしまいました。



参考資料

『世界の文字と言葉入門1 世界の文字の起源と日本の文字』 町田 和彦：監修 小峰書店 2004 年刊

『日本図書館史概説』 岩猿 敏生：著 日外アソシエーツ 2007 年刊

『図書館のすべてがわかる本1 図書館のはじまり・うつりかわり』 秋田 喜代美：監修 こどもくらぶ：編 岩崎書店 2012 年刊

『図書館の日本史』 新藤 透：著 勉誠出版 2019 年刊